

本内容に関する問合せ先：  
一般財団法人 日本環境衛生センター 管理部広報課  
TEL: 044-288-5095, Email: koho@jesc.or.jp

## 2050CNに向けた ごみ処理システムのあり方研究会

当センターでは2014年より、「今後のごみ発電のあり方研究会」を設置し、ごみ発電電力の供給事業や、地域の低炭素化への貢献のあり方を検討してきました。

**今年度、ごみ発電の普及が進んできていることや廃棄物処理に求められる役割がプラスチック資源化等の資源循環や脱炭素化へとより広がってきていることから、「2050CNに向けたごみ処理システムのあり方研究会」へ発展させ、2024年12月20日に研究会を開催しました。**

これまでの報告書は  
コチラ



## 「廃棄物処理施設建設工事等の入札・契約の手引き」の見直しを検討

当センターでは、環境省事業の一環として、「廃棄物処理施設建設工事等の入札・契約の手引き」の見直しについて検討しています。本手引きは、市町村が廃棄物処理施設を建設する際の基礎となる資料です。策定後20年弱が経過していることに加え、2050年CNに向けた廃棄物分野の脱炭素化・低コスト化が急務であることなどから、改訂に向けた検討が必要になっています。

昨年度の手引き見直し  
の報告書はコチラ



当センターは、廃棄物分野の専門性を有しています。

## 研究発表

2月5日-7日にかけて予定されている全国都市清掃研究・事例発表会にて、職員が発表を行います。

### 【演題】

岡部技師：公表資料から見たごみの種類組成等の時系列的な変動及び地域特性による傾向の考察  
西畑技師：製品プラスチック、厨芥類の分別に伴う焼却ごみ量、発熱量の全国推計



## 外部研修での講演

2024年12月20日、環境衛生施設維持管理業協会主催の事業所管理者研修会が開催され、職員が講演しました。

### 【演題】

藤原理事：ごみ処理施設の事故（リチウムイオン電池由来の発火・火災事故）  
寺内次長：プラスチック資源循環と脱炭素について  
小林課長：し尿処理・汚泥再生処理施設に係る現代の運転管理～社会情勢の変化への対応～



## 研究機関からの業務受注

当センターでは、専門性を生かし、国立研究開発法人国立環境研究所より業務を受注しています。

### 【業務例】

- 自治体の製品プラスチックの収集・処理・資源化実績に関するデータ整備方法検討業務
- 日本の3Rフローの時系列変化のビジュアルライゼーション・システム改修業務
- 日韓廃棄物データブック作成に向けた統計データの収集に関する業務

# 自治体向け情報



## 1 令和6年度ヒアリ講習会 2月、行政職員向け研修を各地で実施！



各会場やプログラム、申込みはコチラ！

昨年に引き続き環境省から受注しております。座学やアリの標本を用いた研修を通して、ヒアリ発見時の対応や最新の対策技術、ヒアリの基礎的な同定方法等を学びます。環境省担当課、学識者、当センターの専門職員による講義を行う予定です。

開催日	時間	会場	申込締切
2月13日（木）	13:30-16:30	札幌	2月6日（木）
2月18日（火）		岡山※	2月10日（月）
2月20日（木）		福岡	2月13日（木）



※岡山会場ではオンライン受講も可能です。



### 当センターは、衛生害虫に関する専門性を有しています。

当センターでは、殺虫剤・殺鼠剤・忌避剤等の効力試験、行政職員や事業者向けの研修等を通し、生活環境における有害害虫の制御に貢献しています。

研究活動にも取り組み、第40回ペストロジー学会では職員が研究発表を行いました。

【演題】

数間係長：コインランドリー用洗濯・乾燥機のトコジラミに対する致死効果



HPはコチラ

## 2 毎月開催！環境と衛生のオンラインセミナー



### 前回 自治体等が実施する海岸漂着物対策について

日本の海岸線の長さは世界第6位にも達し、海岸漂着物が深刻な問題となっています。各地で海岸漂着物削減のための取組みが行われていますが、流出経路や海洋漂着物のもととなる河川ごみの種類、効果的な発生抑制策等が十分に把握されていないのが実情です。

2024年12月19日に実施した本セミナーでは、海岸漂着物の削減に資するために、自治体で実施された対策や当センターの取組みを紹介しました。

【講師】

福岡県環境部廃棄物対策課 岩崎主任主事「福岡県における海岸漂着物対策について」

当センター西日本支局環境事業部 西次長「海岸漂着物対策のための河川ごみ等の実態把握について」

### 次回 今後の浄化槽の役割と人口減少社会における汚水処理施設整備

日本の汚水処理施設は都道府県構想に基づき、令和8年度を目途に各種汚水処理施設整備が概ね完了することを目指しています。このためには、人口減少等の社会情勢の変化を考慮し、効率のかつ適正な処理区域の設定及び整備の促進が求められます。

本セミナーでは、汚水処理施設整備の概成における浄化槽の役割及び浄化槽から排出される汚泥とし尿の処理・資源化の今後について情報発信します。

【講師（予定）】

①環境省 廃棄物適正処理推進課 浄化槽推進室 沼田室長

②当センター 環境工学部第二部 環境施設計画課 島村主事

【追加講演】

九州大学 工学研究院 環境社会部門 生態工学研究室 清野准教授

「自治体等が実施する海岸漂着物対策の意義～流域・沿岸域管理から考える」

2/10月  
13:30-16:00  
開催！

前回お届けできなかった講演もあわせて実施します！

## 📢 その他センターの最新事業



### 1 JICA事業を通じた国際支援

当センターでは専門性を生かし、諸外国を支援しています。

#### ① ブラジルにおける海洋ごみ対策支援

ブラジルは7,300キロ以上の海岸線を有し、海洋ごみによる海岸の汚染が大きな課題となっています。JICAでは国別研修「海洋ごみ対策のための廃棄物管理」を実施し、今後3年かけて毎年10名程度の研修員をブラジルから招聘予定です。日本の経験や技術を学んでもらい、廃棄物管理の改善を通じた課題解決を目指します。

当センターでは本事業を受託し、2024年11月15日～12月4日に1年目の研修を実施しました。ブラジルにおける海洋ごみ関連の廃棄物管理や対策、海洋環境モニタリング等を担う行政機関職員11名が来日。日本の政策や自治体による廃棄物適正処理と海岸美化の取組み、プラスチックリサイクル技術、市民啓発手法等を学び、ブラジルにおける海洋ごみ対策に向けてのアクションプランを作成しました。



江の島の美化活動を訪問しました。

#### ② 開発途上国における大気環境管理支援

2024年11月25日～12月20日にかけて、JICA課題別研修「大気環境管理に向けたキャパシティディベロップメント」を実施しました。

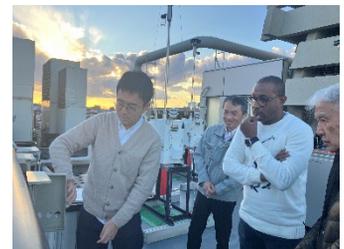
タイ、バングラデシュの大気汚染管理担当の職員4名が来日。大気モニタリング、排出自ベントリ、モデリング等の技術を活用した大気環境管理手法を学び、大気汚染抑制に取り組む現場の見学を行いました。



ごみ処理施設を訪問しました。

#### ③ モロッコにおけるPM2.5測定技術のビジネス化に向けた支援

JICAプロジェクトで来日しているモロッコのPM<sub>2.5</sub>技術者が、2024年11月29日に当センターに来訪されました。当センターでは、PM<sub>2.5</sub>の測定現場や大気測定に係るラボを案内し、今後のモロッコの大気測定に関する意見交換を実施しました。



現場見学の様子

### 2 小中学生向け環境学習動画を公開しました

テーマは「大気汚染について学ぼう」！



当センター支局のアジア大気汚染研究センター（ACAP）では、毎年夏休みに近隣小中学生向けのイベントを行っています。職員からの講義の他、施設見学や実験を通し、子供達に大気汚染について学んでもらうことが目的です。

この度、ACAP職員が企画、講師を務めた小中学生向け環境学習動画が公開になりました。ACAPが酸性雨を起点に東アジア地域の大気汚染問題解決へ向けた活動をしてきたことを背景とし、子供達にもわかりやすい内容となっています。

#### 【動画のトピック】

大気汚染とは？

PM<sub>2.5</sub>について

pHと酸性雨

国際協力

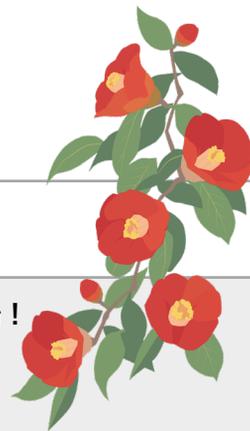
大気汚染の  
計算

科学実験



科学実験の様子

## センターからのお知らせ



講習会日程/  
書籍販売サイト

### pick up news

#### 廃棄物関連講習会



#### 技術管理者等スキルアップ研修会 インターネット研修開始！

廃棄物に関する最旬の行政動向や技術の情報を提供します。

【配信期間】年1月20日（月）～3月31日（月）

【申込〆切】2025年3月17日（月）

#### 生活衛生関連講習会



#### 令和6年度ヒアリ研修会 参加受付中！

詳細は2ページをご覧ください。

#### 石綿関連講習会



#### 工作物石綿事前調査者講習 団体受講の相談が増えています。

工作物の解体や改修工事を行うにあたり、本講習を修了した有資格者による事前調査が令和8年1月から義務化されます。

関係団体の会員様向け研修も実施しておりますので、お気軽にご相談ください。

【今後の開催】

・2月3日-4日 東京

・2月5日-6日 大阪

#### 書籍販売



#### 隔月誌「生活と環境」1月号 発売中！

新春特集：新たな成長ウェルビーイングの実現と循環共生型社会

## 令和6年度環境測定分析統一精度管理調査 中間報告を公開しました。

環境省が分析機関の測定分析能力の向上を目的に、1975年より実施している調査で、当センターは初回より継続して事務局を務めています。当センターは、参加分析機関（約500機関）に配布する試料に対し、公平性担保のための試験を行う他、参加機関から提出された結果に対し評価及び取りまとめを行い、その結果は報告書として参加機関へフィードバックされます。



## column

### スポGOMI×環境省エコ・ファーストin TOKYO 新宿



より詳細な報告はコチラ>>

2024年11月30日、環境省が主催し当センターが企画・運営を務める「スポGOMI×環境省エコ・ファーストin Tokyo 新宿」が開催されました。

晴天の中、エコ・ファースト企業や学生など102名が参加。新宿中央公園周辺エリアにて制限時間内でごみ拾いを行い、重量や種類を基にした点数で競い合いました。

その後は会場を新宿住友スカイルームに移し、環境省及びエコ・ファースト企業によるミニシンポジウムを開催。各企業の取組みや日頃からできるエコ活動について参加者同士で意見交換を行いました。

